

日本土壌微生物学会 2017年度 定期総会資料

2017年8月31日(木)11:00~12:30(予定)

於 東北大学 川内北キャンパス講義棟2階 A200 講義室

総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 2016年度事業報告
 - 1) 大会報告
 - 2) 中学生向け実験講座報告
 - 3) 2017-2018年度役員選出結果
 - 4) 会誌出版・編集報告
 - 5) 幹事会報告
 - 6) 会計関係報告
5. 2017年度事業計画
 - 1) 事業計画案
 - 2) 予算案
 - 3) 会則改正案
6. その他
7. 議長解任
8. 次年度大会実行委員長挨拶
9. 閉会の辞

2016年度事業報告

1. 2016年度大会

2016年度大会は、2016年6月11日(土)から12日(日)、岐阜大学において開催した。大会参加者総数は162名であった。土壤微生物学会シンポジウム「微生物集団機能解析に向けて—非培養法と培養法の可能性—」を開催し、招待講演「イネ有機育苗培土における微生物相のロバストネスと苗病害(高橋)」、「微生物生態系の理解(解析と制御)に向けた挑戦—微生物を用いた環境浄化の取組みを緒として—(二又)」、「微生物の培養法の限界とその打破を目指して(鎌形)」、「土壌プロテオミクスから考える微生物生態系機能(笠原)」の4演題が講演された。市民公開シンポジウム「知られざる微生物のちから。環境の保全や修復に役立つ微生物たち」を開催し、「海岸松林を支える樹木共生微生物(松田)」、「微生物による原位置環境汚染修復(バイオレメディエーション)の実際—テトラクロロエチレン類及び灯油汚染サイトの修復(高見澤)」、「役立つ環境微生物—毒物分解と放射性物質汚染バイオマスの減容化—(金原)」の3演題が講演された。一般講演として口頭発表14件、ポスター発表38件が行われた。大会最優秀ポスター賞として「植物と高親和性水素酸化放線菌の共生関係～大気中の水素は植物共生に寄与するのか～(菅野学・玉木秀幸・加藤創一郎・鎌形洋一)」が、また優秀ポスター賞として「生態系における土壌微生物の新機能:土壌微生物が斑点米カメムシを育む(伊藤英臣・菊池義智)」が選ばれた。

2. 中学生向け実験講座

2016年10月22日(土)岐阜大学応用生物科学部において、岐阜大学応用生物科学部が毎年開講している中学生向けの体験科学講座の中で、実験講座「土の中の微生物」を日本土壤微生物学会共催として開講した。岐阜県内外から合計6名の中学生が参加し、清水将文会員(岐阜大学)を講師として、微生物に関する講義、土壌呼吸の観察実験、希釈平板法による土壌微生物数の比較、細菌のグラム染色とを観察、セルロース分解菌の検出と生息数の比較を行ったのち、観察結果を考察した。

3. 2017-2018年度役員(会長、副会長、評議員)選出結果

会則及び選挙規約に従い、2016年度総会で承認された選挙管理委員会(橋本知義選挙管理委員長)が、2017-2018年度地方選出評議員選挙を実施した。また会長、副会長を選出し、会長指名評議員が確定した。

(2017-2018年度会長・副会長) 太田 寛行, 宍戸 雅宏

(2017-2018年度評議員) 紀岡 雄三, 久我 ゆかり, 近藤 則夫, 齋藤 明広, 境 雅夫, 佐藤 恵利華, 清水 将文, 妹尾 啓史, 染谷 孝, 染谷 信孝, 東條 元昭, 豊田 剛己, 成澤 才彦, 橋本 知義, 藤井 毅, 藤永 真史, 古屋 廣光, 門馬 法明, 横山 正, 横山 とも子

4. 会誌出版・編集報告

1) 「土と微生物」出版報告

① Vol. 70 - 1 (2016年4月発刊) 40頁: 巻頭言, シンポジウム 1編, 総説 2編, 解説 1編, 書評, こんなことが、いま, Microbes and Environments 目次 (Vol. 30-3, 30-4)

② Vol. 70 - 2 (2016年10月発刊) 54頁: シンポジウム 2編, 原著論文 2編, 2016年度日本土壤微生物学会大会講演要旨, こんなことが、いま, Microbes and Environments 目次 (Vol. 31-1, 31-2)

③ Vol. 71 - 1 (2017年4月発刊) 33頁: 巻頭言, シンポジウム 2編, 原著論文 2編, 総説 1編, 書評, Microbes and Environments 目次 (Vol. 31-3, 31-4)

2) 「土と微生物」編集報告 (2017年8月10日現在)

	原著論文			総説・解説・シンポジウム		
	受付	受理	審査中	受付	受理	審査中
2017	2	2	0	2	1	1
2016	6	5	0	8	8	0
2015	1	1	0	9	9	0

5. 幹事会報告

1) 2016年度第2回幹事会

日時:2016年12月25日(日)

場所:名古屋大学農学部

(報告事項)

- ①会計担当幹事が2016年12月現在の会員動向について報告した。
- ②会計担当幹事が2016年度会計執行状況について報告した。
- ③編集委員長が「土と微生物」誌の編集状況について、また J-Stage 掲載および執筆要領の一部改定について報告した。
- ④幹事長(岐阜大会運営委員長代理)が岐阜大会について報告した。
- ⑤日本農学会運営委員が日本農学会運営委員会について報告した。
- ⑥日本微生物生態学会連絡委員が「Microbes & Environments」誌の編集状況について報告した。
- ⑦学術会議等連絡委員が IUSS の活動状況について報告した。
- ⑧2017年合同大会顧問が合同大会の準備経過を報告し、運営に関わる検討事項を整理した。
- ⑨企画幹事が2017年合同大会シンポジウムの検討経過を報告した。
- ⑩企画幹事が若めの会の活動について報告した。
- ⑪幹事長(岐阜大会運営委員長・教育委員会委員代理)がアウトリーチ活動について報告した。
- ⑫総務担当幹事がバナー広告募集について報告した。
- ⑬幹事長が評議員選挙の進捗状況について報告した。
- ⑭幹事長が CiNii 公開中の「土と微生物」誌のバックナンバーの J-STAGE への移行作業について説明した。

(審議事項)

- ①会計担当幹事より「土と微生物」誌の印刷所について提案があり審議した。メール会議により委託先の検討を進めていくこととした。その後メール審議により、委託業務内容と見積額等を検討し、中西印刷へ委託することを承認した。
- ②次期事務局体制について検討した。
- ③2018年度の学会大会の開催候補地について検討した。

2) 2017年度第1回幹事会

日時:2017年6月25日(日)

場所:名古屋大学農学部

(報告事項)

- ①会計担当幹事が2017年5月現在の会員動向について報告した。
 - ・正会員数 429名(うち1名は休会:2016年12月から27名減 入会8名、退会35名(資格喪失16名))
 - ・購読会員 34機関 37口 (1機関増、1口増)
 - ・賛助会員数 19社 23口 (増減なし)

- ②会計担当幹事が会誌印刷所変更の経緯と契約について報告した。
- ③会計担当幹事が 2016 年度会計報告及び 2016 年度会計監査の結果について報告した。
- ④編集委員長が「土と微生物」誌の投稿状況について報告した。また、バックナンバーの J-Stage 掲載が完了したこと、および執筆要領の一部改定について報告した。
- ⑤相野会長が日本農学会評議員会について報告した。
- ⑥日本微生物生態学会連絡委員が「Microbes & Environments」誌について報告した。
- ⑦学術会議等連絡委員が IUSS の次期役員候補を報告し、役員選挙について説明した。
- ⑧横山副会長が 2017 年度合同大会の準備状況について報告した。また、企画幹事が若めの会の開催計画を説明した。
- ⑨幹事長が 2017-2018 年度評議員選挙結果について報告した。
- ⑩総務担当幹事がバナー広告募集について報告した。

(審議事項)

- ①会計担当幹事が 2017 年度予算案(素案)を提案し審議した。さらに検討の上、評議員会へ提案することとした。また、基金設立の具体化が提起され、基金の目的、用途について検討を行った。基金設立に向けて、会則改定案の原案をその後のメール会議により審議し、承認した。会則改定案として評議員会での審議を経て、総会へ提案することとした。
- ②学術会議等連絡委員より、IUSS国際土壌の10年企画(土壌科学の先達へのインタビュー)への学会の取り組みとして、服部勉先生へのインタビューが提案され、実施方法、インタビューアについて太田次期会長が中心となって検討を進めることを了承した。その後メール会議により、インタビューを2017年度合同大会開催期間中に公開で行い、齋藤企画幹事と藤村玲子氏(東京大)にインタビューアを依頼することが提案され、了承された。
- ③幹事長が 2018 年度大会の開催担当候補への打診経過および開催場所、会期、大会委員長について説明し、審議の上、了承した。
- ④相野会長より 2018 年からの事務局体制について説明があり、審議の上、了承した。

6. 会計関係報告(別紙 1 参照)

1) 2016 年度会計報告

2) 2016 年度会計監査報告

2017 年 4 月 8 日、須賀有子、墨泰孝両氏による会計監査が行われ、支出収入に誤りのないことが確認された。

2017年度事業計画

1. 2017 年度事業計画案

- 1) 共催学会として 2017 年度環境微生物系学会合同大会(東北大学川内北キャンパス)を 8 月 29 日(火)から 31 日(木)に開催する。
- 2) 学会誌「土と微生物」を発行する。
- 3) 2018 年度大会を広島大学(東広島市)で開催するための準備を進める。

2. 2017 年度予算案(別紙 2 参照)

3. 会則の一部改正について(別紙資料1 参照)

1) 背景と対応方針

・2015年度評議員会で年間予算に対し繰越額が多いとの指摘があり、2015年度第2回幹事会で基金設立の方向性が確認された。その後、幹事会で学会の状況変化を見ながら検討を進め、2017年度第1回幹事会で基金設立の具体化が提案され、会則を一部改正し、基金に関する項を追加することが2017年度評議員会で了承された。

・会則に **8) 基金** を追加する。

2) 会則改正案

8) 基金

本学会に特定の目的を有する基金を設定することができる。基金に関する規定は別に定める。

9) 付則

14. 平成29年8月31日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。

日本土壌微生物学会 2016年度会計報告 (2017.3.31現在)

項 目	予算額	決算額	差額	執行率	備考
(1) 2016年度収入の部					
前年度繰越金	6,617,121	6,617,121			
正会員費	2,210,000	2,005,489	-204,511	91%	計400件*5,000円(2017年度分納入者 264名)+海外5,489円(国際郵便為替)
購読会員費	216,000	222,000	6,000	103%	37口*6,000円 (2016年度分33機関36口+2017年度新規加入1機関1口)
賛助会員費	240,000	280,000	20,000	108%	20社26口*10,000円
M&E誌代金	140,000	145,000	5,000	104%	29件*5,000円 (2017年度25件) 参考:2016年度購読数、31件
大会運営費返金	300,000	305,219	5,219	102%	2016年岐阜大会委員会より返金
雑収入	50,000	64,304	14,304	129%	印税および著作権料52,139円、CD-ROM6枚 6,720円など
小計(単年度収入分)	3,156,000	3,002,012	-153,988	95%	
合計(繰越金を含む)	9,773,121	9,619,133	-153,988	98%	

項 目	予算額	決算額	差額	執行率	備考
(2) 2016年度支出の部					
会誌刊行費	1,650,000	1,191,126	-458,874	72%	Vol.70No.1(編集38ページ、588,078円)、No.2(編集57ページ、603,048円)
大会運営費	300,000	300,000	0		
日本農学会分担金	56,000	52,950	-3,050	95%	
学術シンポ等補助	30,000	7,095	-22,905	24%	若めの会(岐阜大学サテライトキャンペーン使用料)
M&E誌印刷・発送手数料	180,000	162,432	-17,568	90%	Vol.31(No.1~4)
M&E誌共同編集・出版費	200,000	200,000	0	100%	
公開シンポジウム・出前授業経費	105,000	102,240	-2,760	97%	公開シンポポスター印刷代、公開シンポ講師旅費
事務費	775,000	703,296	-71,704		
事務管理費	15,000	1,543	-13,457	10%	ホームページ使用料
旅費交通費	480,000	421,970	-58,030	88%	幹事会、会計監査、会議出席旅費
会議費	40,000	28,611	-11,389	72%	評議員会弁当、幹事会お茶代
通信郵送料	160,000	161,364	1,364	101%	会誌等郵送、会費請求・再請求、評議員選挙等
文房具費	5,000	15,602	10,602	312%	宛名ラベル、プリンターナー、その他文具など
諸印刷費	70,000	60,302	-9,698	86%	会費請求・再請求、大会案内、評議員選挙等
雑費	5,000	13,904	8,904	278%	振込手数料、誤払い・過払い返金1万円
小計(単年度支出分)	3,296,000	2,719,139	-576,861	82%	
小計(次年度繰越金)	6,477,121	6,899,994	422,873		
合計(繰越金を含む)	9,773,121	9,619,133	-153,988		

(3) 財産目録 (2017年3月31日現在)

項目	金額
現金	71,005
ゆうちょ銀行振替口座	2,974,989
ゆうちょ銀行通常貯金	3,770,345
常陽銀行普通預金	0
三菱東京UFJ銀行普通預金	83,655
財産合計	6,899,994

(4) 備品目録 (2017年3月31日現在)

項目
ノートパソコン
プリンタ
会員管理ソフト
HPビルダー
Mac用Ethernetアダプタ

(5) 雑収入内訳


項目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
利息	632	588	929	1,261	1,131	445
バックナンバー、CD-ROM	99,350	25,020	5,350	7,340	2,360	6,720
著作権料等	22,724	47,894	21,997	17,988	76,764	30,844
印税	4,225	136,816	18,592	19,972	18,325	21,295
その他	0	0	0	24,000	0	5,000
合計	126,931	210,318	46,868	70,561	98,580	64,304

2016年度 会計監査報告

本日、金銭、出納簿、預金通帳および各種領収書について詳細に監査した結果、各帳簿、領収書ともに極めて整然としており、支出収入に誤りのなかったことを報告いたします。


日本土壤微生物学会会計監査委員

氏名

須賀有子 

平成 29 年 4 月 8 日

氏名

墨森孝 

平成 29 年 4 月 8 日

日本土壌微生物学会 2017年度予算案

項目	参考(2016年度)		2015年度	
	予算額	決算額	予算額	決算額
(1) 2017年度収入の部				
前年度繰越金				
正会員費	6,899,994	6,617,121	6,617,121	6,190,937
購読会員費	2,090,000	2,210,000	2,005,489	2,060,000
賛助会員費	216,000	216,000	222,000	210,000
M&E誌代金	230,000	240,000	260,000	290,000
大会運営費返金	140,000	140,000	145,000	190,000
雑収入	0	300,000	305,219	491,693
小計(単年度収入分)	50,000	50,000	64,304	98,580
合計(繰越金を含む)	2,726,000	3,156,000	3,002,012	3,340,273
	9,625,994	9,773,121	9,619,133	9,531,210
(2) 2017年度支出の部				
項目	参考(2016年度)		2015年度	
	予算額	決算額	予算額	決算額
会誌刊行費	1,400,000	1,650,000	1,191,126	1,822,207
大会運営費	200,000	300,000	300,000	0
日本農学会分担金	53,000	56,000	52,950	56,100
学術シンポ等補助	30,000	30,000	7,095	11,530
M&E誌印刷・発送手数料	170,000	180,000	162,432	206,339
M&E誌共同編集・出版費	200,000	200,000	200,000	200,000
公開シンポジウム・出前授業経費	10,000	105,000	102,240	10,000
事務費	895,000	775,000	703,296	607,913
事務管理費	85,000	15,000	1,543	21,991
旅費交通費	550,000	480,000	421,970	344,900
会議費	10,000	40,000	28,611	30,779
通信郵送費	120,000	160,000	161,364	115,056
文房具費	15,000	5,000	15,602	5,825
諸印刷費	100,000	70,000	60,302	88,390
雑費	15,000	5,000	13,904	972
小計(単年度支出分)	2,958,000	3,296,000	2,719,139	2,914,089
小計(次年度繰越金)	6,667,994	6,477,121	6,899,994	6,617,121
合計(繰越金を含む)	9,625,994	9,773,121	9,619,133	9,531,210

資料1 日本土壤微生物学会会則改正案(改正部分は下線で示す)

1) 名称

本学会は「日本土壤微生物学会 (Japanese Society of Soil Microbiology)」と称する。

2) 目的及び構成

本学会は、土壌の微生物に関する試験研究の発達と研究者相互の協力・親睦をはかり、農業生産並びに環境保全へ寄与することを目的とする。本学会は土壌の微生物の理論及び応用に関心を有する者で構成される。

3) 会員

本学会は以下の会員より成る。

正会員 本学会の趣旨に賛同して入会した者とする。

購読会員 会誌の購読を目的とする機関等とする。

賛助会員 本学会の趣旨に賛同し賛助会員費1口以上を納入する団体及び個人とする。

名誉会員 本学会の発展に多大の貢献をした者で、会長の推薦を経て総会の承認を得た者とする。

会員は本学会の主催する行事に参加し、本学会の刊行する印刷物の配布を受け、本学会の刊行する会誌へ投稿することができる。

4) 役員

1. 会の運営のために次の役員をおく。

会長1名、副会長1名、評議員20名、事務局若干名、編集委員会(委員長及び委員若干名)、会計監査2名

2. 会長は本学会を代表し、会務を総括する。副会長は会長を補佐する。会長及び副会長は地域選出評議員により選出される。

3. 評議員会は会長の諮問に応じるとともに、会の発展のために提言を行う。評議員会は正会員より選挙により選ばれた12名の地域選出評議員と、出身母体、分野、年齢などを考慮して会長が指名した会長指名評議員8名より構成される。評議員会の互選により選出された代表評議員は評議員会の総括、意見集約を行う。

4. 事務局は本学会の実務執行機関とし、総務、会計、企画を担当し、幹事長をおく。

5. 編集委員会は会誌に投稿された論文の掲載、その他会誌に関する事項について審議する。

6. 会計監査は本学会の会計を監査する。

7. 会長は必要に応じて各種委員会を設置または廃止することができる。各委員会では、会長の指名により委員長と委員をおき、会長の諮問に応じる。

8. 会長経験者は、会長の要請に応じ、会務の運営に協力する。

9. 役員及び委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5) 総会

総会は最高決議機関とし、年1回開催される。

6) 事業

1. 講演会及び研究発表会

2. 会誌の発行

3. 見学

4. その他

7) 会費

正会員は年5,000円、購読会員は年6,000円、賛助会員は年1口10,000円以上を納入する。ただし、名誉会員は会費の納入を免除する。また会長経験者は会費の納入を免除することが出来る。会費を1年以上滞納した会員に対しては、会誌の配布と大会及び会誌での発表の権利を停止し、3年以上滞納した会員は会員資格を失う。

8) 基金

本学会に特定の目的を有する基金を設定することができる。基金に関する規定は別に定める。

9) 付則

1. 本学会の会計年度は4月1日より翌年3月31日迄とする。
2. 会則は総会において変更することができる。
3. 昭和59年5月10日より施行する。
4. 昭和61年5月17日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
5. 平成5年5月14日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
6. 平成10年5月28日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
7. 平成14年6月6日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
8. 平成16年6月3日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
9. 平成20年6月14日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
10. 平成22年5月22日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
11. 平成26年10月23日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
12. 平成27年5月23日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
13. 平成28年6月12日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。
14. 平成29年8月31日付則第2項により一部改正し、同日から施行する。